

## WHO の健康定義制定過程と健康概念の変遷について

ウスタ 白田      カン 寛\*      タマシロ 玉城      ヒデヒコ 英彦<sup>2\*</sup>      ヨウノ 河野      コウイチ 公一\*

**目的** 世界保健機関（WHO）憲章の第1原理である健康定義について①その制定経緯，②戦後の物質文明に対する反動から生じた健康定義改正論の経緯，③近年，特にWHOが健康に影響を与えると指摘している要素を検証し，今後の健康定義の位置付けを考察する。

**方法** 主にWHOの公式文書より関係資料を引用し検証と考察を行った。

**結果** 終戦直後，WHOは健康への関心を一般普及させるために健康定義を制定した。そのため健康定義はphysical, mental, socialの3要素を核とした平易で親しみやすい口語調の文章で作成された。しかし，戦後の経済復興による物質文明の追求過程においてspiritual dimensionの欠落が指摘された。WHO創立50周年を記念して行われたWHO憲章見直しではイスラム圏担当のWHO東地中海地方事務局がspiritualとdynamicを健康定義へ追加する提案を行った。しかしこの提案は1999年の第52回世界保健総会（WHA52: 52th World Health Assembly）で否決された。

近年，健康は持続可能な開発の中心概念に採用されている。また，たばこ規制枠組み条約（FCTC）のような健康問題に関わる各論分野の画期的国際合意がなされ，健康に対する関心は向上を続けている。WHOの指摘する健康危険因子は途上国の貧困問題など多くあり，今後これらが健康定義の解釈に影響を与えることも予想される。

**結論** 健康定義改正案が否決されて以来，現在まで5年あまりの期間が経過している。このことは健康定義が従来の意味しか持たないという消極的あるいは保守的見解を示しているのではない。むしろspiritual, dynamicを健康定義に追加しようという議論に一定の決着をつけたことは，加盟国間で健康の解釈に思想や宗教，民族性による差が生じた場合や，時代変遷によって健康の解釈に差が生じた場合に，解釈の方向性を現行のWHO健康定義へ集約させる原動力として効果的に働いたと解釈されるべきであろう。よって今後，WHO健康定義の軸であるphysical, mental, socialの3要素はますますその重みと解釈の幅を持って弾力的に普及拡大していくものと予想される。

**Key words** : 健康開発，健康定義，WHO憲章

\* 大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室

<sup>2\*</sup> 北海道大学大学院医学研究科社会医学専攻予防医学講座老年保健医学分野

連絡先：569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室

白田 寛